

## 国際課税委員会（第19回）の概要

平成20年6月16日、経団連会館にて、第19回の『国際課税委員会』が開催されました。今回は、東京国税局の藤沢国際監理官から、「グローバル取引における課税問題」と題する講演をいただき、質疑応答を行いました。

### 講演概要メモ

#### 1、問題意識

##### (1) 所得計算の virtual 化の恐れ

例えば利益率（利益指標）の問題（定点の問題）

（所得計算の定点、機能、課税権の配分という観点）

##### (2) 隙間型租税回避スキーム

所得計算に関する「隙間」

課税権配分基準として適切でない利益指標

経費負担や機能のシフト

##### (3) 隙間型租税回避スキームへの対応

伝統的にはデジタル課税： 実質所得者課税

行為計算否認

私法上の法律構成による課税

PE 認定 等

移転価格課税によるアナログ的アプローチ

隙間をつめることによる効果

所得計算のフラット化（スキームフリーの所得計算）

時価会計の効果に類似

#### 2、所得計算原理について

##### (1) TPM の方向性

##### (2) PSM 及び TNMM（比較法）の本質的な異同

異： PSM          内部利益率          TNMM（比較法）          外部利益率

同： 利益指標に何をを用いるか

PSM における利益分割ファクター = TNMM の利益指標（分母）

##### (3) PSM の例を使った利益指標（分割ファクター）の検討

イ P 仕入れ、S 販売の例： 売上原価の取扱い

ロ P 製造、S 販売の例： 製造原価の取扱い

ハ 販管費の中身の検討

以下の議事録本文は会員用メールマガジンで配信いたします。